

問い合わせ先
第十一管区海上保安本部
海洋情報監理課長 馬場 典夫
TEL098-867-0118(内線 2510)



第十一管区海上保安本部
平成 24 年 8 月 31 日

「第十一管区海上保安本部開設 40 周年記念講演会」について

第十一管区海上保安本部開設 40 周年記念として講演会を、海洋情報業務の記念日にあたる 9 月 12 日（水路記念日）にかんぼの宿 那覇レクセンターにおいて開催します。

記

- 1 日時 平成 24 年 9 月 12 日（水）午後 2 時 30 分～午後 5 時
- 2 場所 かんぼの宿「那覇レクセンター」
- 3 講演内容
 - ・南西諸島海溝の巨大地震を探る
琉球大学理学部 中村 衛 准教授
 - ・沖縄沿岸海洋観測システムの構築に向けて
沖縄科学技術大学院大学 御手洗 哲司 准教授
 - ・海洋情報業務 40 年のあゆみ
第十一管区海上保安本部次長 春日 茂
- 4 その他
定員 80 名（参加費無料、要事前登録）
参加の申し込みは、下記の申し込み先まで事前に、参加代表者の氏名、所属、参加人数及び連絡先をお知らせください。
- 5 申し込み先
海洋情報監理課 監理係
電話：098-867-0118
ファックス：098-868-5242
電子メール：sodan11@jodc.go.jp
- 6 水路記念日とは・・・
明治初期、次々に日本に来航したイギリスをはじめとする諸外国が、日本沿岸の測量を行い、海図を作るなどして、日本周辺の地を明らかにしていく事態に、明治政府は、国防のみならず海運のために、自ら測量して海図を作成することの重要性を認識し、1871 年（明治 4 年）9 月 12 日（旧暦 7 月 28 日）に、兵部省海軍部水路局を設置し、組織的に我が国独自の海図の作成に取りかかりました。
1951 年（昭和 26 年）の水路部創立 80 周年記念事業を基に、「水路記念日」が制定されました。



第十一管区海上保安本部開設40周年 記念講演会

日 時 平成24年9月12日(水) 14:30~17:00

場 所 かんぽの宿 那覇レクセンター
沖縄県那覇市港町 2-9-15

プログラム

- 14:00 開 場
- 14:30 開催のあいさつ
第十一管区海上保安本部長 眞嶋 洋
- 14:40 南西諸島海溝の巨大地震を探る
琉球大学理学部 中村 衛 准教授
- 15:30 沖縄沿岸海洋観測システムの構築に向けて
沖縄科学技術大学院大学 御手洗 哲司 准教授
- 16:20 海洋情報業務 40年のあゆみ
第十一管区海上保安本部次長 春日 茂
- 16:50 総合質疑
- 17:00 閉 会

定 員 80名（参加費無料、要事前登録）

参加の申し込みは、下記の間合わせ先まで事前に、参加代表者の氏名、御所属、参加人数及び連絡先をお知らせいただき申し込みください。なお連絡いただきました情報は、講演会の開催以外の目的に使用いたしません。

お問合わせ

第十一管区海上保安本部
海洋情報監理課 監理係
電 話 : 098-867-0118
ファックス: 098-868-5242
電子メール: sodan11@jodc.go.jp

講演者の紹介と講演概要

「南西諸島海溝の巨大地震を探る」

琉球大学理学部 中村 衛 准教授



講演概要 沖縄は「大地震が少ない地域」と言われることが多い。しかし海底での地殻変動観測から南西諸島海溝でも歪が蓄積されつつあることが判明してきた。また陸上での津波堆積物の調査から、沖縄各地を度々巨大地震津波が襲っていたことが次第に明らかになりつつある。ここでは南西諸島の巨大津波発生に関する研究の最前線について紹介し、今後どのような地震津波災害が起こりうるか、さらに、それらに備えるには何が必要か述べてゆく。

プロフィール 平成9年京都大学理学研究科博士後期課程地球惑星科学専攻修了(博士(理学))。平成9年より琉球大学理学部に所属。平成20年より琉球大学島嶼防災研究センター併任教員。専門は地震学で、沖縄から台湾にかけての地震活動・地下構造、GPSなどを用いた地殻変動、巨大津波の研究を行っている。沖縄県津波・高潮被害想定調査検討委員、沖縄県地震被害想定調査業務検討委員、沖縄県地震・津波想定検討委員会委員を務める。

「沖縄沿岸海洋観測システムの構築に向けて」

沖縄科学技術大学院大学 御手洗 哲司 准教授



講演概要 沖縄は世界をリードする海洋研究拠点となる非常に高い可能性を秘めています。独特な立地条件に恵まれ、沿岸海洋観測システムを構築するための専門性を有する大学・機関も揃っています。美しい自然を守りながら、沖縄の自立的発展に貢献するための試みについてご紹介します。

プロフィール 米国ワシントン大学で博士号(流体力学)を取得後、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で海洋中の大小様々なスケールの乱流が生物現象に及ぼす影響を解明する研究を行う。沖縄では最新のモデルと観測技術を組み合わせ、沖縄近海の海洋環境予報システムを構築し、沖縄近海の幼生輸送パターンの解明等を目指す。

「海洋情報業務 40年のあゆみ」

第十一管区海上保安本部次長 春日 茂

講演概要 第十一管区海上保安本部設立から40年に亘り、船の安全航行に不可欠な海図の整備や様々な海洋活動や捜索救難に必要な海の流れなどに関する調査の実施など、当管区本部で実施してきた海洋情報業務を振り返り、これまでの成果と活動を検証し、取り巻く環境を鑑み、今後の課題について検討する。

プロフィール 京都大学大学院修了後、海上保安庁入庁。大陸棚調査等長年に亘り海洋情報業務に従事。平成23年4月より現職。